

都市再生整備計画 事後評価シート
三春地区

平成28年2月

福島県三春町

様式2-1 評価結果のまとめ

都道府県名	福島県		市町村名	三春町		地区名	三春地区			面積	146ha		
交付期間	平成22年度～平成26年度		事後評価実施時期	平成27年度		交付対象事業費	432.7百万円	国費率	0.4				
1)事業の実施状況	当初計画に位置づけ、実施した事業		事業名										
			基幹事業	町道改良事業(2路線)、地域生活基盤施設(広場整備、案内板設置)、高質空間形成施設(散策路等修景整備、裏道ネットワーク整備、公衆トイレ建設)									
	当初計画から削除した事業		事業名										
			基幹事業	地域生活基盤施設(広場整備1ヶ所)			削除/追加の理由			削除/追加による目標、指標、数値目標への影響			
	新たに追加した事業		事業名										
			基幹事業	(1)公園(城山公園の用地取得) (2)高次都市施設(観光交流センター整備)			(1)史跡としての保全・整備や都市公園としての公共性を考慮して追加 (2)中心市街地活性化、まち中観光の拠点施設として整備するため追加			(1)影響なし (2)観光拠点となり、まち中観光振興及び景観形成に大きな効果あり			
交付期間の変更		当初	平成22年度～平成26年度		交付期間の変更による事業、指標、数値目標への影響								
		変更	-										
2)都市再生整備計画に記載した目標を定量化する指標の達成状況	指標		単位	従前値		目標値		数値		目標達成度	1年以内の達成見込み	効果発現要因(総合所見)	フォローアップ予定時期
				基準年度	目標年度	モニタリング	評価値						
	指標1	桜川沿川の歩行者交通量	人/日	3,200	21	3,360	26		3,378	○	あり	景観整備及び歩行者ネットワークの整備が実施されたことで、桜川沿いを散策する町民及び観光客が増加した。	-
	指標2	来町観光客数	人/年	14,000	20	15,500	26		10,096	△	あり	東日本大震災並びに東京電力福島第一原発事故の影響で観光客数が激減、各種取組みにより回復傾向にあるが目標達成には至らず。	-
	指標3	城山公園利用者割合	%	42	21	65	26		53	△	あり	各まちづくり協会等の協力もあり利用率の増加につながったものの、目標達成には至らず。目標設定を高く見積もりすぎたものとする。	-
	指標4										あり		
指標5										あり			
3)その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)による効果発現状況	指標		単位	従前値		目標値		数値		目標達成度	1年以内の達成見込み	効果発現要因(総合所見)	フォローアップ予定時期
				基準年度	目標年度	モニタリング	評価値						
	その他の数値指標1	来町観光客数(参考:県中圏域の観光客入込数)	人/年	4,455(5,131,000)	23			10,096(7,043,000)				東日本大震災直後を基準と考えた時、関係機関との連携した活動によりH26の観光客入込数が増加していることに加え、伸び率が県中圏域全体の伸び率を大きく上回っていることから指標2の評価に加味する。	-
	その他の数値指標2												
その他の数値指標3													
4)定性的な効果発現状況													
5)実施過程の評価	実施内容				実施状況				今後の対応方針等				
	モニタリング				都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった								
	住民参加プロセス		(1)城山公園のさくら等の植樹及び植樹後の草刈り等の維持管理については、各まちづくり協会等との協働で実施する。 (2)百杯宴広場整備事業にあたり、植樹する樹木を町民からの寄贈とした。		都市再生整備計画に記載し、実施できた ● 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した ● 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった				(1)城山公園については、各まちづくり協会等と協働しての維持管理を継続して実施する。				
	持続的なまちづくり体制の構築		各まちづくり協会等との協働		都市再生整備計画に記載し、実施できた ● 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した ● 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった				協働体制を維持し、継続的に城山公園の草刈り等を実施する。				

様式2-2 地区の概要

三春地区(福島県三春町) 都市再生整備計画事業の成果概要

まちづくりの目標	目標を定量化する指標	従前値	目標値	評価値	
豊かな自然の恵みや歴史と文化を守り伝える三春らしいまちづくりの推進 ・魅力ある街なかの再生の促進 ・三春町の持つ歴史や街並みといった景観に配慮したまちづくり	桜川沿川の歩行者交通量	単位:人/日	3,200 H21.4	3,360 H26	3,378 H27.4
	来町観光客数	単位:人/年	14,000 H20	15,500 H26	10,096 H26
	城山公園利用者割合	単位: %	42 H21	65 H26	53 H26

・高質空間形成施設
散策路等修景整備
石畳舗装と
(対岸)
(景観)転落防護柵

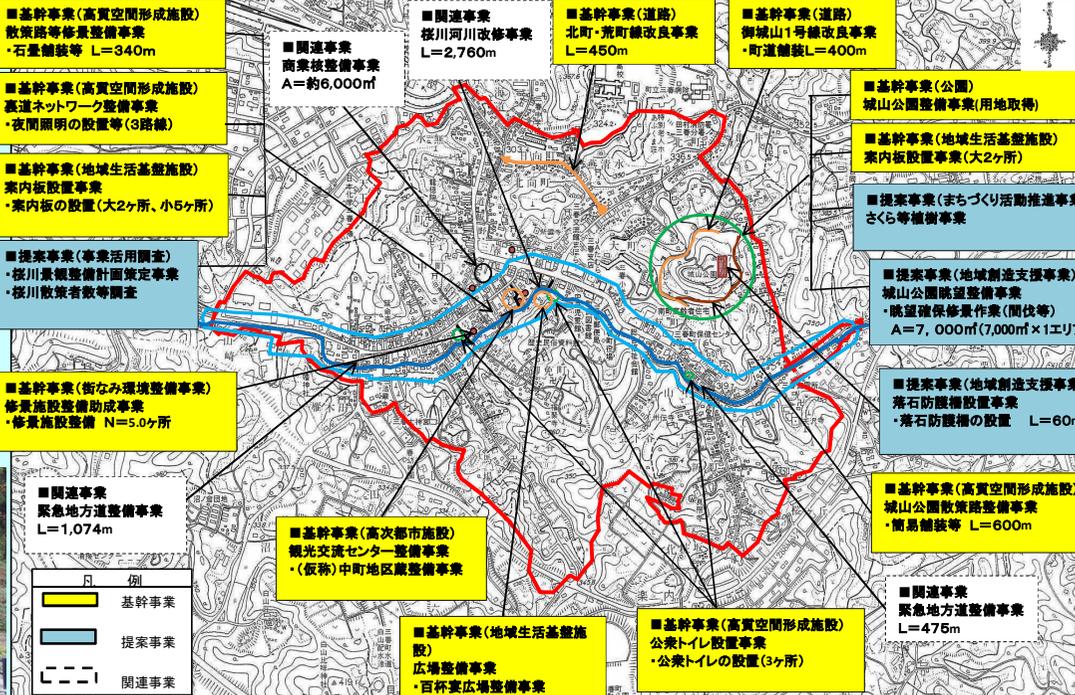


・高次都市施設
観光交流センター
(中町地区蔵)整備
三春なかまち蔵



・地域生活基盤施設
広場整備
百杯宴広場
(写真上)
「百杯宴記の碑」



■ 基幹事業(高質空間形成施設)
散策路等修景整備事業
・石畳舗装等 L=340m

■ 基幹事業(高質空間形成施設)
高道ネットワーク整備事業
・夜間照明の設置等(3路線)

■ 基幹事業(地域生活基盤施設)
案内板設置事業
・案内板の設置(大2ヶ所、小5ヶ所)

■ 提案事業(事業活用調査)
・桜川景観整備計画策定事業
・桜川散策路等調査

■ 基幹事業(街なみ環境整備事業)
修景施設整備助成事業
・修景施設整備 N=5.0ヶ所

■ 関連事業
緊急地方道整備事業
L=1,074m

■ 基幹事業(高次都市施設)
観光交流センター整備事業
・(仮称)中町地区蔵整備事業

■ 基幹事業(地域生活基盤施設)
広場整備事業
・百杯宴広場整備事業

■ 基幹事業(高質空間形成施設)
公衆トイレ設置事業
・公衆トイレの設置(3ヶ所)

■ 関連事業
緊急地方道整備事業
L=476m

■ 基幹事業(道路)
桜川河川改修事業
L=2,760m

■ 基幹事業(道路)
北町・荒町線改良事業
L=450m

■ 基幹事業(道路)
御城山1号線改良事業
・町道舗装L=400m

■ 基幹事業(公園)
城山公園整備事業(用地取得)

■ 基幹事業(地域生活基盤施設)
案内板設置事業(大2ヶ所)

■ 提案事業(まちづくり活動推進事業)
さくら等植樹事業

■ 提案事業(地域創造支援事業)
城山公園眺望整備事業
・眺望確保修景作業(間伐等)
A=7,000㎡(7,000㎡×1エリア)

■ 提案事業(地域創造支援事業)
落石防護柵設置事業
・落石防護柵の設置 L=60m

■ 基幹事業(高質空間形成施設)
城山公園散策路整備事業
・簡易舗装等 L=600m

・道路整備:北町・荒町線(施工前・竣工)



・道路整備
・まちづくり活動推進事業
舗装した御城山1号線と各まちづくり協会による維持管理状況(写真上)



・高質空間形成施設
中町公衆トイレ



まちの課題の変化	<ul style="list-style-type: none"> ・桜川河川改修事業及び周辺整備が進んだことで桜川沿川の歩行者数は増加している。 ・東日本大震災並びに東京電力福島第一原発事故による影響で激減した観光客数は、回復傾向にあるものの震災以前にはほど遠い状況であり、関係機関協力により震災以前の状況にする努力を続けている。 ・城山公園は整備が進み利用者割合が増加したほか、「お城山まつり実行委員会」主催による『第1回お城山まつり』が開催されるなど町のシンボルとしての利活用への関心が高まっている。
今後のまちづくりの方策(改善策を含む)	<ul style="list-style-type: none"> ・中心市街地のハード面での整備はほぼ完了したことから、今後はソフト的な取組みが重要になってくる。ソフト面充実のため各まちづくり協会、三春まちづくり公社及び三春町商工会等との連携を強化し協働によるまちづくりを進める。 ・城山公園に関しては城址であることから史跡としての指定も含め、今後関係機関との協議を進め更なる整備、利活用について検討を行う。 ・今後の効果の持続は、整備した施設の維持管理が必要不可欠であることから、各まちづくり協会等の協力を得ながら適正な維持管理に努めるほか、三春まちづくり公社や三春町商工会と連携しPR活動も充実させる。 ・城下町の町並みを保全し、活用するため、景観特別地区内の土蔵・土塀の修繕にかかる経費の補助を継続して実施する。

都市再生整備計画 事後評価シート (添付書類)

(1) 成果の評価

- 添付様式1-① 都市再生整備計画に記載した目標の変更の有無
- 添付様式1-② 都市再生整備計画に記載した事業の実施状況(完成状況)
- 添付様式2-① 都市再生整備計画に記載した数値目標の達成状況
- 添付様式2-② その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)により計測される効果発現の計測
- 添付様式2-参考記述 定量的に表現できない定性的な効果発現状況

(2) 実施過程の評価

- 添付様式3-① モニタリングの実施状況
- 添付様式3-② 住民参加プロセスの実施状況
- 添付様式3-③ 持続的なまちづくり体制の構築状況

(3) 効果発現要因の整理

- 添付様式4-① 効果発現要因の整理にかかる検討体制
- 添付様式4-② 数値目標を達成した指標にかかる効果発現要因の整理
- 添付様式4-③ 数値目標を達成できなかった指標にかかる効果発現要因の整理

(4) 今後のまちづくり方策の作成

- 添付様式5-① 今後のまちづくり方策にかかる検討体制
- 添付様式5-② まちの課題の変化
- 添付様式5-③ 今後のまちづくり方策
- 添付様式5-参考記述 今後のまちづくり方策に関するその他の意見
- 添付様式5-④ 目標を定量化する指標にかかるフォローアップ計画
- 添付様式6 当該地区のまちづくり経験の次期計画や他地区への活かし方
- 添付様式6-参考記述 今後、都市再生整備計画事業の活用予定、又は事後評価を予定している地区の名称(当該地区の次期計画も含む)

(5) 事後評価原案の公表

- 添付様式7 事後評価原案の公表

(6) 評価委員会の審議

- 添付様式8 評価委員会の審議

(7) 有識者からの意見聴取

- 添付様式9 有識者からの意見聴取

(1) 成果の評価

添付様式1-① 都市再生整備計画に記載した目標の変更の有無

	変更		変更前	変更後	変更理由
	あり	なし			
A. まちづくりの目標		●			
B. 目標を定量化する指標		●			
C. 目標値		●			
D. その他()		●			

土地区画整理 事業(都市再 生)					
住宅市街地 総合整備事業					

※1:事業費の大幅変更、新規追加がある場合は理由を明記のこと

添付様式1-② 都市再生整備計画に記載した事業の実施状況(事業の追加・削除を含む)

基幹事業									
事業	事業箇所名	当初計画		最終変更計画		当初計画からの 変更の概要 ※1 (事業の削除・追加を含む)	都市再生整備計画に記載した まちづくり目標、目標を定量化する指標、数値目標等への影響	事後評価時の完成状況	
		事業費	事業内容	事業費	事業内容			完成	完成見込み
地区再開発事業									
バリアフリー環境整備事業									
優良建築物等整備事業									
住宅市街地総合整備事業									
街なみ環境整備事業	修景施設等の整備			5.0	景観整備 (助成事業)N=5ヶ所	東日本大震災により被災した土蔵の補修に助成することで、景観形成と歴史的建造物の保全・利活用を推進するための事業追加	影響なし	●	
住宅地区改良事業等									
都心共同住宅供給事業									
公営住宅等整備									
都市再生住宅等整備									
防災街区整備事業									

※1: 事業費の大幅変更、新規追加がある場合は理由を明記のこと

提案事業									
事業	細項目	当初計画		最終変更計画		当初計画からの 変更の概要 ※1 (事業の削除・追加を含む)	都市再生整備計画に記載した まちづくり目標、目標を定量化する指標、数値目標等への影響	事後評価時の完成状況	
		事業費	事業内容	事業費	事業内容			完成	完成見込み
地域創造 支援事業	城山公園眺望整備事業	12.0	間伐等A=20,000㎡	4.0	間伐等A=7,000㎡	地権者相続登記の目途が立たず、計画期間内の用地取得が困難となったため、事業量を縮小し、事業費を減額する。	影響なし	●	
	城山公園落石防護柵設置事業	1.5	落石防護柵設置 L=30m	4.3	落石防護柵設置 L=60m	再調査の結果、落石の恐れがある危険な箇所が当初より広範囲であったため、事業量及び事業費を追加する。	影響なし	●	
事業活用調査	桜川景観整備計画策定事業	5.0	桜川景観整備計画 策定	5.0	桜川景観整備計画 策定			●	
	桜川散策者数等調査			1.0	桜川筋散策者数調査	事後評価実施の基礎資料収集のため追加する。	影響なし	●	
まちづくり 活動推進事業	さくら等植樹事業	1.0	さくら等植樹 N=50~100本	1.0	さくら等植樹 N=50~100本			●	

※1: 事業費の大幅変更、新規追加がある場合は理由を明記のこと

(参考) 関連事業									
事業	細項目	事業箇所名	事業費		事業期間		進捗状況及び所見	備考	
			当初計画	最終変更 計画	当初計画	最終変更計画			
桜川河川改修事業		一級河川桜川	6,000	6,000	H20~H24	H20~H24	全体的に遅れているが、平成27年度未完了予定。		
緊急地方道整備事業		県道飯野三春石川線	-	-	~H25	~H25	全体的に遅れており平成29年度は完成見込みであるが、三春地区都市再生整備計画影響範囲については、平成27年度未完了予定。		
緊急地方道整備事業		県道須賀川三春線	-	-	~H25	~H25	東日本大震災の影響があり、整備に対する方針変更。平成29年度完了見込み。三春地区都市再生整備計画への影響はなし。		
商業核整備事業		大町・中町地内	-	-	-	H23	事業完了		

添付様式2-① 都市再生整備計画に記載した数値目標の達成状況

指標	単位	データの計測手法と評価値の求め方 (時期、場所、実施主体、対象、具体手法等)	(参考)※1 計画以前の値 (ア)		従前値 (イ)		目標値 (ウ)		数値(エ)		目標達成度※2		1年以内の達成見込みの有無	
				基準年度		基準年度		目標年度					あり	なし
指標1	桜川沿川の歩行者交通量	人/日	-		3,200	H21	3,360	H26	モニタリング		モニタリング			
									事後評価	確定見込み ●	3,378	事後評価	○	
指標2	来町観光客数	人/年	18,100	H11	14,000	H20	15,500	H26	モニタリング		モニタリング			●
									事後評価	確定見込み ●	10,096	事後評価	△	
指標3	城山公園利用者割合	%	-		42	H21	65	H26	モニタリング		モニタリング			●
									事後評価	確定見込み ●	53	事後評価	△	
指標4									モニタリング		モニタリング			
									事後評価	確定見込み		事後評価		
指標5									モニタリング		モニタリング			
									事後評価	確定見込み		事後評価		

指標	目標達成度○△×の理由 (達成見込み「あり」とした場合、その理由も含む)	その他特記事項 (指標計測上の問題点、課題等)
指標1	目標としていた3,360人に対し、交通量調査の結果3,378人と僅かではあるが目標を超えており目標達成している。関連事業である桜川河川改修と三春地区都市再生整備事業が進められたことで、景観整備と歩行者が歩きやすい環境が整備されたことが目標達成要因と考えられる。○	特になし
指標2	基準年度である平成20年度の「滝桜観光客」の入込数が約30万人に対し、平成26年度が約22万人であったことを考えると観光客に対する割合では同規模となっており、東日本大震災が発生した翌年度の平成23年度の来町観光客数4,455人に対しては大きく上回っている。東日本大震災並びに東京電力福島第一原発事故後の風評被害払拭により観光客が戻ることで、目標値に近づいていくことが期待できる。△	東日本大震災並びに東京電力福島第一原発事故という予期せぬ出来事による観光への影響が大きく、基準年度以前との比較が難しい。
指標3	目標値には達しなかったものの基準年よりは11ポイント上昇しており一定の成果はあった。また、桜やモミジなどの植栽を実施した後も、町民の皆さんで草刈り等の維持管理が実施され、平成27年度には城山まつり実行委員会主催による「第1回城山まつり」が実施されるなど城山への関心は高まっている。△	目標設定に少々無理があったように思われるが、今後も各まちづくり協会及び関係機関と協力して目標値に近づけるようにしていきたい。
指標4		
指標5		

※1 計画以前の値とは、都市再生整備計画の作成より以前(概ね10年程度前)の値のことをいう。

※2 目標達成度の記入方法

○: 評価値が目標値を上回った場合

△: 評価値が目標値には達していないものの、近年の傾向よりは改善していると認められる場合

×: 評価値が目標値に達しておらず、かつ近年の傾向よりも改善がみられない場合

添付様式2-② その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)による効果発現の計測

指標		データの計測手法と評価値の求め方 (時期、場所、実施主体、対象、具体手法等)	(参考)※1 計画以前の値 (ア)		従前値 (イ)		数値(ウ)		本指標を取り上げる理由	その他特記事項 (指標計測上の問題点、課題等)
			基準 年度	基準 年度	基準 年度	基準 年度	数値(ウ)	数値(ウ)		
その他の 数値指標1	来町観光客数 (参考:県中圏域の観光客 入込数)	人/年	14,000 (8,062,000)	H22	4,455 (5,131,000)	H23	モニタリング		東日本大震災並びに東京電力福 島第一原発事故により観光客入込 数が激減しており、計画時とは状 況が余りにも大きく状況が変わっ てしまったことから。	H26の県中圏域の観光客入 込数が対H23で37.3%の伸び 率だったのに対し、三春町は 126.6%の伸びであることから 指標2の評価に加味する。
							事後評価	確定 見込み		
その他の 数値指標2							モニタリング			
							事後評価	確定 見込み		
その他の 数値指標3							モニタリング			
							事後評価	確定 見込み		

※1 計画以前の値 とは、都市再生整備計画の作成より以前(概ね10年程度前)の値のことをいう。

添付様式2-参考記述 定量的に表現できない定性的な効果発現状況

--

(2) 実施過程の評価

・本様式は、都市再生整備計画への記載の有無に関わらず、実施した事実がある場合には必ず記載すること。

添付様式3-① モニタリングの実施状況

都市再生整備計画に記載した内容 又は、実際に実施した内容	実施状況	実施頻度・実施時期・実施結果	今後の対応方針等
-	予定どおり実施した	-	-
	予定はなかったが実施した		
	予定したが実施できなかった (理由)		
-	予定どおり実施した	-	-
	予定はなかったが実施した		
	予定したが実施できなかった (理由)		

添付様式3-② 住民参加プロセスの実施状況

都市再生整備計画に記載した内容 又は、実際に実施した内容	実施状況	実施頻度・実施時期・実施結果	今後の対応方針等
城山公園へのさくら等の植樹については、各まちづくり協会(町民が主体的に町政に参加するための組織)等と共同で進める	予定どおり実施した	● 【実施頻度】計5回 【実施時期】平成22年度～平成27年度 【実施結果】 各まちづくり協会等と協議し、協働で城山公園の植栽と草刈り等の維持管理に取り組んだ	城山公園の草刈り等維持管理を毎年1～2回、各まちづくり協会等との協働で実施する
	予定はなかったが実施した		
	予定したが実施できなかった (理由)		
百杯宴広場整備事業にあたり、植栽する樹木の寄贈	予定どおり実施した	● 【実施頻度】計1回 【実施時期】平成26年度 【実施結果】 百杯宴広場整備にあたり植栽する樹木の寄贈を町民に呼びかけた結果、29名から申出があり、うち21名から約120本の樹木の寄贈を受けた	-
	予定はなかったが実施した		
	予定したが実施できなかった (理由)		

添付様式3-③ 持続的なまちづくり体制の構築状況

都市再生整備計画に記載した内容 又は、実際に実施した内容	構築状況	実施頻度・実施時期・実施結果		今後の対応方針等
		i. 体制構築に向けた取組内容	ii. まちづくり組織名・組織の概要	
各まちづくり協会(町民が主体的に町政に参加するための組織)等と協働	予定どおり実施した	● まちづくり協会との協働体制の確立	各まちづくり協会: 昭和の合併前の町村を単位にした組織で、町民が主体となって町政に参画する組織	協働体制を維持し、継続的に城山公園の草刈り等を実施する
	予定はなかったが実施した			
	予定したが実施できなかった (理由)			
-	予定どおり実施した	-	-	-
	予定はなかったが実施した			
	予定したが実施できなかった (理由)			

(3) 効果発現要因の整理

添付様式4-① 効果発現要因の整理にかかる検討体制

名称等	検討メンバー	実施時期	担当部署
庁内の横断的な組織(まちづくり交付金事後評価検討チーム)	<ul style="list-style-type: none"> 産業課 生涯学習課 歴史民俗資料館 建設課 	平成27年12月1日	建設課(都市再生整備計画担当課)

添付様式4-② 数値目標を達成した指標にかかる効果発現要因の整理

指標の種類別		指標1							
指標名		桜川沿川の歩行者交通量							
種別	事業名・箇所名	指標改善への貢献度	総合所見	指標改善への貢献度	総合所見	指標改善への貢献度	総合所見	指標改善への貢献度	総合所見
基幹事業	道路:北町荒町線	—	関連事業である桜川河川改修とその周辺での都市再生整備事業により、景観整備及び歩行者ネットワークの整備が実施されたことで、桜川沿いを散策する町民及び観光客が増加し目標達成につながった。						
	道路:御城山1号線	—							
	公園:城山公園	—							
	地域生活基盤施設:桜川沿川(大町地内ほか)	◎							
	高質空間形成施設:桜川沿川(大町地内ほか)	◎							
	高次都市施設:観光交流センター整備(中町地内)	◎							
街なみ環境整備事業:修景施設等の整備	○								
提案事業	地域創造支援事業:城山公園眺望整備事業	—							
	地域創造支援事業:落石防護柵設置事業	—							
	事業活用調査:桜川景観整備計画策定事業	—							
	事業活用調査:桜川散策者数等調査	—							
	まちづくり活動推進事業:さくら等植樹事業	—							
関連事業	桜川河川改修事業	◎							
	緊急地方道整備事業:県道飯野三春石川線	—							
	緊急地方道整備事業:県道須賀川三春線	—							
	商業核整備事業	○							

※指標改善への貢献度

- ◎:事業が効果を発揮し、指標の改善に直接的に貢献した。
- :事業が効果を発揮し、指標の改善に間接的に貢献した。
- △:事業が効果を発揮することを期待したが、指標の改善に貢献しなかった。
- :事業と指標の間には、もともと関係がないことが明確なので、評価できない。

今後の活用	関係機関と連携し中心市街地の活性化及び観光復興に努めるほか、整備した施設の適正な維持管理を実施していくことで更なる散策者数の増加につなげる。			
-------	--	--	--	--

添付様式4-③ 数値目標を達成できなかった指標にかかる効果発現要因の整理

指標の種別		指標2			指標3								
指標名		来町観光客数			城山公園利用者割合								
種別	事業名・箇所名	目標未達成への影響度	総合所見	要因の分類	目標未達成への影響度	総合所見	要因の分類	目標未達成への影響度	総合所見	要因の分類	目標未達成への影響度	総合所見	要因の分類
基幹事業	道路:北町荒町線	—	平成23年3月発生の東日本大震災並びに東京電力福島第一原発事故の影響により、観光客数が激減し回復に向けて取り組んでいるが、震災前の水準にはほど遠く目標達成には至らなかった。	Ⅲ	—	各まちづくり協会等の協力も得ながら各種整備を実施し、利用率の増加につなげたものの目標達成には至らなかった。	Ⅰ	—			—		
	道路:御城山1号線	△			△								
	公園:城山公園	△			△								
	地域生活基盤施設:桜川沿川(大町地内ほか)	△			—								
	高質空間形成施設:桜川沿川(大町地内ほか)	△			—								
	高次都市施設:観光交流センター整備(中町地内)	△			—								
街なみ環境整備事業:修景施設等の整備	—	—											
提案事業	地域創造支援事業:城山公園眺望整備事業	—			△								
	地域創造支援事業:落石防護柵設置事業	—			△								
	事業活用調査:桜川景観整備計画策定事業	—			—								
	事業活用調査:桜川散策者数等調査	—			—								
	まちづくり活動推進事業:さくら等植樹事業	△			△								
関連事業	桜川河川改修事業	△			—								
	緊急地方道整備事業:県道飯野三春石川線	—	—										
	緊急地方道整備事業:県道須賀川三春線	—	—										
	商業核整備事業	△	—										

※目標未達成への影響度

- ××:事業が効果を発揮せず、指標の目標未達成の直接的な原因となった。
- ×:事業が効果を発揮せず、指標の目標未達成の間接的な原因となった。
- △:数値目標が達成できなかった中でも、ある程度の効果をあげたと思われる。
- :事業と指標の間には、もともと関係がないことが明確なので、評価できない。

※要因の分類

- 分類Ⅰ:内的な要因で、予見が可能な要因。
- 分類Ⅱ:外的な要因で、予見が可能な要因。
- 分類Ⅲ:外的な要因で、予見が不可能な要因。
- 分類Ⅳ:内的な要因で、予見が不可能な要因。

改善の方針 (記入は必須)	三春まちづくり公社や三春町商工会等との連携により、観光客は回復傾向にあり、また空店舗への新期開業などの動きがあることから、今後も関係機関と連携を図り、PR活動等のソフト面を充実させ来町観光客数の増加につなげていく。	目標を高く設定したことが目標達成につながらなかった一番の要因と考えるが、各まちづくり協会等の協力を得ながら事業を進めることが出来たことから、引き続き各まちづくり協会等の協力を得ながら利用促進につなげていく。	
------------------	---	---	--

(4) 今後のまちづくり方策の作成

添付様式5-① 今後のまちづくり方策にかかる検討体制

名称等	検討メンバー	実施時期	担当部署
庁内の横断的な組織(まちづくり交付金事後評価検討チーム)	<ul style="list-style-type: none"> ・産業課 ・生涯学習課 ・歴史民俗資料館 ・建設課 	平成27年12月1日	建設課(都市再生整備計画担当課)

添付様式5-② まちの課題の変化

事業前の課題 都市再生整備計画に記載 したまちの課題	達成されたこと(課題の改善状況)	残された未解決の課題	事業によって発生した 新たな課題
町のシンボルであるお城山の眺望確保や散策路整備等による、町民や来訪者の利用促進	間伐による眺望の確保、道路舗装や散策路の整備は実施できた。 また、各まちづくり協会等との連携(a)が図られ、植栽や草刈り等の維持管理が行われていることで利用率は増加(a)した。	<ul style="list-style-type: none"> ・地形的に健常者以外の利用に不向きであることから、健常者以外の方々の利用促進に向けた取組み(c)。 ・公園指定区域内の民地取得(d) 	なし
街なかで行われる祭り(三春盆踊り)やイベント(三春ダルマ市)の実施の際の、通過交通排除による参加者等の安全安心の確保	北町・荒町線の改良により祭り、イベント時の迂回路が確保される。	なし	
町全体の活力と賑わいを取り戻すとともに安全安心なまちづくりを進めるための道路交通網の機能を回復	北町・荒町線の改良、桜川沿川の整備による表通りと裏通りのネットワークが可能になり、安全安心の歩行空間が整備され賑わい創出(b)の一助となっている。	更なる活力と賑わいの創出(e)	
大事な地域資源の活用と、三春町が持つ歴史や町並みといった景観への配慮と三春らしさの創出	町所有の土蔵の活用と個人所有の土蔵の保全に努めたことで歴史的な町並みの保全・活用が図られた。 また、石張り舗装や広場整備による景観整備も実施し、中心市街地の魅力向上(b)につながった。	更なる中心市街地の魅力向上と三春らしさの創出(e)	

これを受けて、成果の持続にかかる今後のまちづくり方策を添付様式5-③A欄に記入します。

これを受けて、改善策にかかる今後のまちづくり方策を添付様式5-③B欄に記入します。

添付様式5-③ 今後のまちづくり方策

	効果の持続を図る事項	効果を持続させるための基本的な考え方	想定される事業
A欄 効果を持続させるため に行う方策	(a)各まちづくり協会等との連携による城山公園の利用率の増加	城山公園の適正な維持管理を実施するにあたり、各まちづくり協会等との協働による活動を継続し、より多くの町民の城山公園への関心を高めしていく	・城山公園のPRやイベントの実施 ・適正な維持管理
	(b)中心市街地の魅力向上と賑わいの創出	整備した施設の適正な管理を実施するとともに、三春まちづくり公社及び三春町商工会などとの連携を強化する	・中心市街地でのイベントの開催や魅力発信 ・民間所有の歴史的建造物の保全・活用に向けた補助の継続 ・適正な維持管理

	改善する事項	改善策の基本的な考え方	想定される事業
B欄 改善策 ・未達成の目標を達成するための改善策 ・未解決の課題を解消するための改善策 ・新たに発生した課題に対する改善策	(c)城山公園の利用促進	利用促進に向けた環境整備	・手すりや階段等の整備
	(d)城山公園の用地取得	継続的な土地所有者との協議	・用地取得に向けた交渉
	(e)更なる中心市街地の魅力向上と賑わいの創出	空家、空き店舗の活用や中心市街地の魅力向上、賑わい創出のためのイベントの開催や情報発信	・空家・空き店舗活用事業 ・中心市街地でのイベントの開催及びPR活動の実施

フォローアップ又は次期計画等
において実施する改善策
を記入します。

なるべく具体的に記入して下さい。

■様式5-③の記入にあたっては、下記の事項を再確認して、これらの検討結果を踏まえて記載して下さい。(チェック欄)

●	交付金を活用するきっかけとなったまちづくりの課題(都市再生整備計画)を再確認した。
●	事業の実施過程の評価(添付様式3)を再確認した。
●	数値目標を達成した指標にかかる効果の持続・活用(添付様式4-②)を再確認した。
●	数値目標を達成できなかった指標にかかる改善の方針(添付様式4-③)を再確認した。
●	残された課題や新たな課題(添付様式5-②)を再確認した。

添付様式5-参考記述 今後のまちづくり方策に関するその他の意見

城山公園については、三春城址であることから史跡としての保全と活用に向け検討を加える。

添付様式5-④ 目標を定量化する指標にかかるフォローアップ計画

・フォローアップの要否に関わらず、添付様式2-①、2-②に記載した全ての指標について記入して下さい。
 ・従前値、目標値、評価値、達成度、1年以内の達成見込みは添付様式2-①、2-②から転記して下さい。

・評価値が「見込み」の全ての指標、目標達成度が△又は×の指標、1年以内の達成見込み「あり」の指標について、確定値を求めるためのフォローアップ計画を記入して下さい。

指標		単位	従前値		目標値		評価値		目標達成度	1年以内の達成見込みの有無	フォローアップ計画			
			年度	年度	年度	年度					予定時期	計測方法	その他特記事項	
指標1	桜川沿川の歩行者交通量	人/日	3,200	H21	3,360	H26	確定 ●	3,378	○	あり	→	-	-	-
							見込み							
指標2	来町観光客数	人/年	14,000	H20	15,500	H26	確定 ●	10,096	△	あり	→	-	-	-
							見込み							
指標3	城山公園利用者割合	%	42	H21	65	H26	確定 ●	53	△	あり	→	-	-	-
							見込み							
指標4				H	H		確定			あり	→			
							見込み							
指標5				H	H		確定			あり	→			
							見込み							
その他の数値指標1	来町観光客数 (参考: 県中圏域の観光客入込数)	人/年	4,455 (5,131,000)	H23			確定 ●	10,096 (7,043,000)			→	-	-	-
その他の数値指標2				H			確定				→			
その他の数値指標3				H			確定				→			

添付様式6 当該地区のまちづくり経験の次期計画や他地区への活かし方

・下表の点について、特筆すべき事項を記入します。

項目		要因分析	次期計画や他地区への活かし方
数値目標 ・成果の達成	うまくいった点		適正な数値目標に努める
	うまく いかなかった点	数値目標の設定を高く見込み過ぎた	
数値目標と 目標・事業との 整合性等	うまくいった点		
	うまく いかなかった点		
住民参加 ・情報公開	うまくいった点	城山公園での植栽や草刈り等、毎年継続して各まちづくり協会等と協働で実施してきたことで、各まちづくり協会が年1回の合同開催だけでなく自主的な事業としての実施にもつながった	今後も各まちづくり協会等と協働しての活動を継続する
	うまく いかなかった点		
PDCAによる事業 ・評価の進め方	うまくいった点		
	うまく いかなかった点		
その他	うまくいった点		
	うまく いかなかった点		

添付様式6ー参考記述 今後、都市再生整備計画事業の活用予定、又は事後評価を予定している地区の名称(当該地区の次期計画も含む)

なし

(5) 事後評価原案の公表

添付様式7 事後評価原案の公表

公表方法	具体的方法	公表期間・公表日	意見受付期間	意見の受付方法	担当部署
インターネット	町のホームページに掲載	平成28年1月5日～1月19日	平成28年1月5日～1月19日	担当課への郵便、電話、電子メール、FAX等	建設課(都市再生整備計画担当課)
広報掲載・回覧・個別配布	町広報に掲載(町ホームページ及び建設課で供覧している旨を掲載)	平成28年1月号			
説明会・ワークショップ	—	—	—		
その他	建設課にて供覧	平成28年1月5日～1月19日	平成28年1月5日～1月19日		

住民の意見	・特になし				
-------	-------	--	--	--	--

(6) 評価委員会の審議

添付様式8 評価委員会の審議

委員構成		実施時期	担当部署	委員会の設置根拠	委員会の母体組織
学識経験のある委員	長澤 悟 (東洋大学 名誉教授)	平成28年2月2日	建設課(都市再生整備計画担当課)	まちづくり交付金評価委員会設置要綱	独自に設置
その他の委員	<ul style="list-style-type: none"> ・財)ふくしま市町村支援機構 課長 ・都市計画コンサルタント会社 代表 ・三春町住宅研究会 役員 ・三春まちづくり協会 役員 				

審議事項※1		委員会の意見
事後評価手続き等にかかる審議	方法書	・特になし
	成果の評価	<p>・平成元年の「三春町市街地整備基本計画」の策定に始まり、景観に配慮した建物や公共公益施設の建設による“点”の整備がされ、街路事業や磐州通りの整備により“線”となり、今回の整備で“面”としての大きな拡がりを見せた。30年近くかけて一貫して、継続して手がけてきた三春町の『まちづくり』が一つの形を成した。事業評価には、今回の整備だけでなく約30年の一貫性や計画性、継続性も含め高く評価すべきとの意見をいただいた。</p> <p>・東日本大震災、東京電力第一原子力発電所の事故による風評被害などの影響を評価に加味したことを説明し理解を得た。</p>
	実施過程の評価	<p>・城山公園の植栽や維持管理を町民協働で実施したほか、百杯宴広場も町民から寄贈された樹木で整備を進めており評価するが、全体的に若者の参加者が少ないので今後の継続性と年代間の拡がり考えた時、若者が参加する仕組みや若者からアイデアを出させるような取り組みが出来れば、なお良いとの意見があり、今後の町民参加や意見募集などの際に参考にさせていただくこととした。</p> <p>・案内看板のデザイン決定についても、三春まちづくり公社観光部と協議し連携を取りながら整備を進めたことは、まち中観光を進めるうえで今後につながる取り組みであるとの評価をいただいた。</p>
	効果発現要因の整理	・特になし
	事後評価原案の公表の妥当性	・特になし
	その他	・百杯宴広場の整備では、表通りからの見え方、アイストップまで気遣って整備し、散策路の転落防護柵についても、いくつもの製品を比較検討したうえで材料を選んでいる計画性や「こだわり」はキチンと説明すべきであり、事業評価でも高く評価すべきとの意見をいただいた。
	事後評価の手続きは妥当に進められたか、委員会の確認	・手続きが適正に進められたことが確認された。

今後のまちづくりについて審議	今後のまちづくり方策の作成	<p>・町民の関心が高いうちに、もっと積極的にまちづくりに参加する、参加できるシステム作りを進めることが大切であり、そういった思いに応えられる行政の体制作りを進めるべきとの意見をいただいた。今後、庁内及び関係機関との連携協議の中で検討を加えていきたい。</p> <p>・今回の「まちづくり」の経験を今後の三春町の「まちづくり」に伝え、つないでいく必要がある。そうすることで整備された“線”が延び、“面”が広がる。町行政内にそのための人材育成や組織体制作りを進めていく必要があるとの意見をいただいた。事業の成果について庁内で説明し組織としての理解度を高めていくこととする。</p> <p>・「PR活動を上手にすることで観光客が増えることが予想される。何か具体的な取り組みはあるか。」の質問があり、『観光ボランティアの会』に働きかけ春の観光シーズンに百杯宴広場でお茶の振る舞い、役場産業課商工観光グループとリアル宝探しイベント「コードF-6」のコースにすることで協議を進めていることを説明する。委員からは、さらに関係機関と連携して周辺のお食事処のPRやモデルコースの見直し、モデルコースに沿った案内板の整備などを検討してはどうかとの意見をいただいた。今後、庁内関係課及び関係機関との協議の中で検討していくこととした。</p> <p>・城山公園にサクラ、ハナモモ、モミジ、アジサイを町民協働で植栽し維持管理にあたっていることは評価するが、一方で「一部本来の植生を壊したのではないか」との意見もある。今後、城山公園を史跡として整備することを検討する際、元々の植生を調査し必要なものは復元すること。また、元々城山にあり移築され城山公園外に現存する建物がないか、ある場合はどのような状況か調査し、城山公園に移築することを検討してはどうか。その際に若い建築家や大工に参加してもらい、三春のまちづくりや景観整備について継承するようにはどうかとの意見をいただいた。今後、整備検討の際、庁内関係課で協議するほか、三春町住宅研究会などにも相談していくこととした。</p>
	フォローアップ	・特になし
	その他	・特になし
	今後のまちづくり方策は妥当か、委員会の確認	・今後のまちづくり方策の方向性について、適切であることが確認された。
その他	・特になし	

※1 審議事項の詳細は「まちづくり交付金評価委員会チェックシート」を参考にしてください。

(7) 有識者からの意見聴取

添付様式9 有識者からの意見聴取

・この様式は、効果発現要因の整理(添付様式5)、今後のまちづくり方策の検討(添付様式6)、評価委員会の審議(添付様式9)以外の機会に、市町村が任意に有識者の意見聴取を行った場合に記入して下さい。

意見聴取した有識者名・所属等	実施時期	担当部署
写真家・中村邦夫 氏 (桜川界限の人々の暮らす風景を撮り続け、写真集を出版するとともに桜川沿いの民家土塀を借用し写真展を開催)	(写真展開催) 平成26年10月24日～26日 平成27年11月 6日～ 8日	建設課(都市再生整備計画担当課)

桜川改修や周辺整備により、これまでの景観と生活環境を変えてしまいましたが、藩政時代から続く地域の独特な暮らしを、また長い年月をかけてじっくりと築き上げて欲しい。
そして、これまでのように心豊かで心地よいものであって欲しいと願っています。
今回の事業により、これまで見えなかった裏山の紅葉が映え、とても綺麗です。
桜川沿いに柵の設置、ベンチなどの休憩施設や散策路が整備されましたが、さらに裏山に通じるルート構成ができると楽しみです。

有識者の意見



(7) 有識者からの意見聴取

添付様式9 有識者からの意見聴取

・この様式は、効果発現要因の整理(添付様式5)、今後のまちづくり方策の検討(添付様式6)、評価委員会の審議(添付様式9)以外の機会に、市町村が任意に有識者の意見聴取を行った場合に記入して下さい。

意見聴取した有識者名・所属等	実施時期	担当部署
渡辺安博 氏 (株)三春まちづくり公社 観光部	平成27年12月24日	建設課(都市再生整備計画担当課)

有識者の意見

今回の整備事業により、住みやすい安全なまちづくりがまた一歩進みました。私は観光の仕事に就いていますが、まちづくりは“観光のためのまちづくり”ということよりも、“住民にとって住み良いまちづくり”を行うことが第一義だと考えています。住民にとって心地よく感じられる環境づくりが後から結果として観光に繋がっていく、その順序がほんとうだろうと思います。

桜川沿線も住民にとって散策しやすい場所となりました。駐車場と公衆トイレも整備され、住民だけではなく観光での来訪者の利便性も高まりました。「なかまちの蔵」も整備され、そこから路地を抜けて川伝いに歩くことができるようになったことはとても面白く、街なかで宝探しをする観光イベント(リアル宝探しイベント「コードF-5」)にも活用されました。

今後、整備され住み良くなった地域を、新たな散策コースを紹介するなど観光の面でも一層活用し、そこから住民の方々の生活や文化に良い影響を与えられるよう協働して取り組んでいきたいと思っています。



桜川沿線と「なかまち蔵」を結ぶ路地



都市再生整備計画

みはる
三春地区

ふくしま みはるまち
福島県 三春町

・様式は、A4長辺側を、2箇所ホチキス留めすること。

都市再生整備計画の目標及び計画期間

都道府県名	福島県	市町村名	ミハル マチ 三春町	地区名	ミハル マチ 三春地区	面積	146 ha
計画期間	平成 22 年度 ~ 平成 26 年度	交付期間	平成 22 年度 ~ 平成 26 年度				

<p>目標</p> <p>大目標 豊かな自然の恵みや歴史と文化を守り伝える三春らしいまちづくりの推進</p> <p>目標1 魅力ある街なかの再生の促進</p> <p>目標2 三春町の持つ歴史や街並みといった景観に配慮したまちづくり</p>
--

<p>目標設定の根拠</p> <p>まちづくりの経緯及び現況 三春町は、福島県のほぼ中央に位置し、面積72.76km²、人口2万人弱の小さな城下町です。町のほぼ中央の中心市街地は、城下町の面影を残す蔵や千本格子を持つ商家が谷あいには立ち並び、その奥の山間の緑と相まって、寺社仏閣が数多く散在しています。</p> <p>また、町の南側には里山の谷あいに平成10年3月に完成した三春ダムやさくら湖があり、その湖岸には樹齢1000年以上といわれる国の天然記念物である「滝桜」があります。桜の時期には、観光客が県内外から30万人以上訪れ、滝桜の観光に合わせ街なか観光を誘発し、季節的ではありますが賑わいを見せています。</p> <p>しかし、近年は、城下町特有の地形による車社会への不適合、人口の減少、少子高齢化、商店街の空洞化が著しい傾向にありました。</p> <p>そこで、平成元年3月に「三春町市街地整備基本計画」、平成11年3月には「三春町中心市街地活性化基本計画」を策定し、中心市街地活性化のため様々な整備を進めてきました。</p> <p>①町民の利便性向上のため、シルバーハウジング(高齢化住宅)をはじめ、福祉会館、町民図書館等々の公共公益施設の集積。</p> <p>②中心市街地の表通りは交通渋滞が慢性化し都市機能が著しく損なわれていたため、長期にわたって中心市街地からの通過車輛を排除するためのバイパスネットワークの整備。</p> <p>③また同時に快適な街路空間の創出を目指して、幅員16mの改良工事と電線地中化を行い、街路灯などの夜間照明にも配慮した優れた沿道景観の形成が図られ、夏の『三春盆おどり大会』や冬の『三春ダルマ市』などのイベントの開催場所としても有効に利用されています。</p> <p>④中心市街地の再生を図るため、平成15年3月に『三春交流館まほら』が完成しました。三春交流館まほらはマチ(地域商業)とムラ(地域農業)の結びつきが深まる場、ひと・もの・情報の交流の場、町民の文化・学習・展示活動の場などとして、幅広く活用されています。</p> <p>そうした中で、整備の過程で街づくり協定というルールづくりをしたり、平成2年3月に制定された「美しいまちをつくる三春町景観条例」に基づく1軒1軒の地道な話し合いによる建築行為が、少しずつ魅力的な市街地を形成してきております。</p> <p>また、祭り(三春盆おどり)やイベント(三春ダルマ市)を想定した仕掛けを合わせて整備したことにより、それらを活用して、少しでも市街地に活気を取り戻そうとする動きが出てきました。</p>
--

<p>課題</p> <p>①町のシンボルであるお城山は、以前は市街地を眺望できるビューポイントであったが、樹木の生育により山頂からの見通しが損なわれていたり、散策路が十分でないなど多くの町民や来訪者の利用のための整備が不十分です。</p> <p>②街なかで行われる祭り(三春盆おどり)やイベント(三春ダルマ市)の実施の際に、通過交通が支障になっています。参加者等の安全安心を確保するための対策が望まれています。</p> <p>③町全体の活力と賑わいを取り戻すとともに安全安心なまちづくりを進めるうえで、道路交通網は重要な役割を果たしており、その機能を回復させる必要があります。</p> <p>④三春町には他には無い地域資源がたくさんあるにも関わらず、有効に活用されているものは多くありません。大事な地域資源の活用策が求められているとともに、三春町の持つ歴史や町並みといった景観への配慮と三春らしさの創出が課題となっています。</p>

<p>将来ビジョン(中長期)</p> <p>①町のシンボルであるお城山は、以前は市街地を眺望できるビューポイントであったが、樹木の生育により山頂からの見通しが損なわれていたり、散策路が十分でないなど多くの町民や来訪者の利用のための整備が不十分です。</p> <p>②街なかで行われる祭り(三春盆おどり)やイベント(三春ダルマ市)の実施の際に、通過交通が支障になっています。参加者等の安全安心を確保するための対策が望まれます。</p> <p>③町全体の活力と賑わいを取り戻すとともに安全安心なまちづくりを進めるうえで、道路交通網は重要な役割を果たしており、その機能を回復させる必要があります。</p> <p>④三春町には他には無い地域資源がたくさんあるにも関わらず、有効に活用されているものは多くありません。大事な地域資源の活用策が求められているとともに、三春町の持つ歴史や町並みといった景観への配慮と三春らしさの創出が課題となっています。</p>
--

目標を定量化する指標							
指 標	単 位	定 義	目標と指標及び目標値の関連性	従前値		目標値	
					基準年度		目標年度
桜川沿川の歩行者交通量	人/日	定点(2ヶ所)での歩行者交通量(休日)	桜川沿川の散策路整備等による景観に配慮したまちづくりを進めることにより、地区のシンボリック空間である桜川沿川を歩いて楽しむ人達が増加し、町民や観光客の交流拡大とともに中心市街地の賑わいをもたらす。	3,200	平成21年度	3,360	平成26年度
来町観光客数	人/年	中心市街地の各拠点施設の観光客数(産業課観光G調べ)	来訪動機の創出により、中心市街地における交流人口の増加を見込む。	14,000	平成20年度	15,500	平成26年度
城山公園利用者割合	%	城山公園活用アンケート	中心市街地の交流拠点として、町のシンボルであるお城山を整備し、町民や観光客の交流・憩いの空間を創出することにより、城山公園利用者割合が増加し、魅力ある街なかの再生を促進する。	42	平成21年度	65	平成26年度

都市再生整備計画の整備方針等

計画区域の整備方針	方針に合致する主要な事業
<p>整備方針1(魅力ある街なかの再生の促進)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・町民や観光客が集い語り合える中心市街地の交流拠点として、また交流・憩いの空間を創出するため、町のシンボルであるお城山(城山公園)の眺望確保等の修景整備を進める。 なお、桜やモミジの植樹については、各まちづくり協会(町民が主体的に町政に参加するために組織)等と共同で進めていく。 ・祭り(三春盆おどり)やイベント(三春ダルマ市)開催時の通過交通の迂回路としての役割が増している路線の整備を行い、道路交通網を再構築し、安全安心なまちづくりを進める。なお、町道北町・荒町線は、沿線住民の日常生活を支える生活道路として、また、沿線に県立田村高校といった文教施設があり、通学路としての整備も必要とされている。 ・中心市街地の商業核として整備を進めている地区へ大型店舗を誘致することにより商業の活性化を図るため隣接する路線の整備を行い、沿線住民の生活道路として、また、利用者の利便性を確保したい。 <p>整備方針2(歴史や街並みといった景観に配慮したまちづくり)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・桜川は「まちづくり」の重要な構成要素の一つとして既存計画に位置付けられており、桜川の改修事業に併せ、景観整備の方向と基本理念を定めた(仮称)桜川景観整備計画を策定し、これに基づき、三春町の持つ街並みといった特性に配慮した散策路や裏道ネットワーク、広場及び観光交流拠点等の整備を進める。 また、城山公園は眺望確保等の周辺整備を実施することにより、交流人口の増加が見込める。 三春町の持つ歴史的情緒が感じられる街並みを巡る観光や四季折々の変化に富んだ城山公園の魅力を創出することにより交流人口の増加につなげる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・城山公園眺望整備事業(提案事業/地域創造支援事業) ・御城山1号線改良事業(基幹事業/道路) ・城山公園散策路整備事業(基幹事業/高質空間形成施設) ・落石防護柵設置事業(提案事業/地域創造支援事業) ・案内板設置事業(基幹事業/地域生活基盤施設) ・さくら等植樹事業(提案事業/まちづくり活動推進事業) ・町道北町・荒町線改良事業(基幹事業/道路) <ul style="list-style-type: none"> ・散策路等修景整備事業(基幹事業/高質空間形成施設) ・裏道ネットワーク整備事業(基幹事業/高質空間形成施設) ・公衆トイレ設置事業(基幹事業/高質空間形成施設) ・広場整備事業(基幹事業/地域生活基盤施設) ・案内板設置事業(基幹事業/地域生活基盤施設) ・桜川景観整備計画策定事業(提案事業/事業活用調査) ・観光交流センター整備事業(基幹事業/高次都市施設)
<p>その他</p> <p>【交付期間中の住民参加】</p> <p>交付期間中においては、各種事業を円滑に進め、目標達成に向けた確実な効果をあげるため、町とまちづくり協議会で毎年事業成果について評価や事業推進の改善を行うための協議を実施する。</p> <p>また、随時、町民に広報誌やホームページ等で情報を公開する。</p>	

